

年 月 日/

学校 年 組 番 なまえ

2024年8月21日付



桜川消防署、県内初

県内の低山が登山初心者の人気を集める中、山岳遭難に備えた訓練施設が桜川消防署（桜川市鉾田）に完成した。山の斜面を模した壁が特徴で、実践的な訓練を通して円滑な救助活動につなげるのが狙い。筑西広域市町村圏事務組合消防本部によると、県内の消防署で同種施設を整備するのは初めて。

山岳訓練施設「山岳用訓練棟」は7月、同消防署の一角に完成。山の斜面のような「傾斜壁」（高さ7.5メートル、幅6メートル、傾斜45度）が特徴で、ごつごつとした山肌を再現している。同署所属の16人で構成する特別救助隊を中心に活用可能だ。

山岳救助へ訓練施設

斜面も再現、実践的に

同署の山岳救助訓練はこれまで、近隣の公園などで実施してきたが、同署敷地内に訓練施設を構えたことで、実際の救助活動で連携が欠かせない消防隊の訓練が容易になる。上野貴史副署長（57）は「施設で救助活動の基礎を固め、現場では地面の緩さや強風など施設との違いを学んでほしい」と設置の狙いを語った。

市内には日本百名山の筑波山をはじめ、雨巻山や足尾山、御嶽山などの低山がそろうっており、特別救助隊の潮田新治隊長（46）は「初心者が入山しやすい低山の登山が人気」と語る。

人気の半面、遭難リスクも高まっており、同署管内では年間1〜4件の山岳救助に伴う救急搬送が発生。近年は道迷いや滑落、オフロードバイクの転倒事故も相次いでいるという。昨年5月には登山中の男性（55）から「胸が痛い」という119番通報があり、救急搬送して一命を取り留めたケース

山岳遭難救助に備え、桜川消防署に整備された訓練施設。桜川市鉾田

もあった。

秋の行楽シーズンが近く中、上野副署長は、低山の登山について「1人ではなく、複数の『バディ（仲間）』を組んで会話を楽しみながら登ってほしい。むちゃはしないことが大事」と安全登山を呼びかけた。（小野寺晋平）

【問1】 桜川消防署の「山岳訓練施設」の特徴は？

山の斜面のような「傾斜壁」。ごつごつした山肌を再現。

【問2】 どのような訓練が行われている？

資機材の取り扱いや滑落した遭難者を見つけて救助するまでの流れなどを習得する訓練

【問3】 低山登山を安全に行うために大切なことは？

1人ではなく「バディ（仲間）」を組んで登山をし、無茶はしない



よ
読めない文字は、かざくや、ともだちにきいてみてね